

2016年 3月23日

みらい 未来への扉 とびら



高等特別支援学校 支援部 第81号

平成27年度を振り返って



今年度は学期ごとにお伝えしたいテーマをしぼって書かせていただきました。

1学期は“**学習目標の変更**”について。小中学校より基礎学力を積み上げての現在があると思います。本校の生徒を見ていると、社会で働いていくための基礎学力の土台はしっかりできあがっています。“学校＝お勉強”と考えがちですが、この3年間はソーシャルスキルやライフスキルを中心にした、社会の中で生きていく実践的な力を基礎学力の土台の上に作っていきましょう。

2学期は“**生徒の発達(成長)とそれを伸ばす支援**”について。本校の生徒は、個人内で発達に凸凹がある生徒が多いのですが、凹をカバーする手持ちの力(凸)を持っています。成長を感じた時は、その瞬間を逃さず“ほめ言葉の支援”を。「今のおばあちゃんへのご挨拶、めっちゃよかったよ～。成長したよね～。」など近くにいる保護者であるからこそ気付く成長もあります。本人には気付かない部分ですが、ぜひ言葉にして伝えてあげてください。

3学期は“**厳しさの正体**”について。「うちの子が厳しいと言われている学校で過ごすなんて、大丈夫かしら？」との思いもあったと思います。“厳しさ＝不当な厳しさ”ではないことをお話させて頂きました。未来の働く姿をイメージし、そちらに基準を置いて今、社会の中で生きていく力を身につけていきましょう。

今年度の「未来への扉」の感想や、来年度の「未来への扉」にリクエストがございましたら支援部までお知らせ下さい。一年間ありがとうございました。

I. Y

あっという間の1年でした。入学当初の頼りなげな1年生が、日々の生活や行事、実習を通して成長していく姿を、間近で見ることができて幸せでした。今後も生徒の持っている力、伸びようとする力を最大限生かせるよう、必要最小限の支援を心掛けたいと思います。1年間ありがとうございました。

1学年支援部 Y. H

3月11日の前日、クラスで「明日、東日本大震災のあった日や。黙祷しないと…」との声。修学旅行後にチリで大きな地震があった時も、HR教室に行くと何人かの生徒が、「南三陸に大きな津波が来ないだろうか。心配やな…」と話していました。修学旅行で宮城県に行ってみ聞かしたことで、私も生徒も東日本大震災がより身近なものとなりました。実際に体験することは、とても大きなことです。日々の授業や行事、友達など他の人との関わりの中での体験も同じことがいえます。たくさんの体験をこれからの生活に生かしてほしいと思っています。一年間ありがとうございました。

2学年支援部 Y. S

子どもたちの日々の成長に感動する毎日でした。あいさつ、授業、部活・・・さまざまな場面で人としての成長を感じられる日が多かったように感じます。できたことを認め伸ばしていく。子どもたち一人ひとりの輝きが伝わってくる一年でした。保護者の方々からも支援方法のみならず多くのことを学ばせていただきました。子どもたちはもちろんのこと、私たち大人も多くの人と繋がり、心穏やかにベターな支援を探していきましょう。ありがとうございました。

3学年支援部 F. N

今年度も『うちの先生♪』を担当させていただきました。短時間でしたがそれぞれ貴重で魅力的なお話を聞かせてもらえたことを感謝しております。この機会を通してその方の物の見方や考え方などに触れることが出来、そのたびに元気をいただけた気がしています。そして少し心もお近づきになれた気がしています。人と話をするってステキですね☆

今年度もありがとうございました。

レポーター YことY. N

皆さんの応援団の一員として、学年の先生方と共にこの一年を過ごしてきました。個性、特性、環境とさまざまな要因が背後にあって「ヘルプ」を求められる場合が多かったように思います。即効性のある解決方法はありませんが、目の前の悩み事だけに捉われず将来の生活をイメージしながら相談できるよう心がけたいと思います。

先日、校内マラソン大会が行われました。生徒たちの走る力はそれぞれで、先生たちの応援スタイルもまたそれに応じたものでした。寄り添って伴走する応援もあれば、背中を見せて引っ張る応援、声をあげての応援・・・どんなに一生懸命応援しても、一歩を踏み出すことができるのは生徒の皆さん自身です。これからも応援し続けます。ありがとうございました。

K. A